

第5回	台東区都市計画マスタープラン策定委員会 会議録
日時	平成30年5月7日(月)午後5時～午後7時15分
場所	台東区役所10階 研修室
出席者	<p>【委員長】野澤委員</p> <p>【委員】加藤委員、池邊委員、中島委員、茅野委員、松本委員、松田委員、梅澤委員、本間委員、伴委員、岡田委員</p> <p>【事務局】原嶋課長、村上係長、齋藤係長、横倉係長、藤田主任</p>
議事	<p>○事務局の作業状況と策定に向けたスケジュールについて</p> <p>○台東区都市計画マスタープラン(事務局案)について</p>
配布資料	<p>台東区都市計画マスタープラン策定委員会委員名簿</p> <p>台東区都市計画マスタープラン策定委員会設置要綱</p> <p>第4回台東区都市計画マスタープラン策定委員会議事録(案)</p> <p>資料1:事務局の作業状況と策定に向けたスケジュール</p> <p>資料2:台東区都市計画マスタープラン(事務局案)の概要</p> <p>参考資料1:都市計画マスタープラン策定に向けた意見交換会の議事概要</p> <p>参考資料2:分野別方針の基本的な考え方</p> <p>参考資料3:台東区都市計画マスタープラン(事務局案)</p> <p>台東区都市計画マスタープラン</p> <p>台東区都市計画図</p>
会議内容	
<p>1. 開会</p> <p>2. 出席人数の報告、委員長挨拶</p> <p>【事務局】平成30年4月1日付で区職員のうち、土木担当部長に人事異動があったため、紹介する。</p> <p>【委員長】昨年の3月以来の策定委員会となる。区の中では動きをやめたわけではなく、専門家の方は検討を進めてきた。改めて本日再開し、今年度中活発な議論していただきたい。スケジュールについては後ほど紹介する。本日もよろしく願います。</p> <p>3. 第4回都市計画マスタープラン策定委員会議事録について</p> <p>【事務局】本日机上に配布している「第4回都市計画マスタープラン策定委員会議事録(案)」は、その際の資料とあわせて、ホームページでの公表を予定している。持ち帰りいただき、ご確認の上、訂正箇所等がある場合は、5月23日水曜日までに事務局へご連絡いただきたい。なお、公表時には個人名や団体名を伏せた形で公表する。公表時期は6月上旬を予定している。</p> <p>4. 議事</p> <p>(1) 事務局の作業状況と策定に向けたスケジュールについて</p> <p>【事務局】(資料1、参考資料1の説明)</p> <p>【委員長】基本構想は半年先に出るのか。</p> <p>【事務局】10月を目標に作業中である。</p>	

【委員】参考資料1にあるODという言葉はどういう意味か。

【委員長】ODというのは、出発地（Origin）と到着地（Destination）の略で、交通計画の専門用語である。

## （２） 台東区都市計画マスタープラン（事務局案）について（１～３章）

【事務局】（資料2、参考資料2の説明）

【委員長】事務局案の3章、4章、資料2のP2～5、参考資料2を中心に議論いただきたい。

【委員】計画期間は今後何年か。

【事務局】だいたい20年を想定している。

【委員】今から20年後の人口や年齢層はどうなっているのか。それがベースとなる。

【事務局】区の人口ビジョンをみると、今のところ人口は増えている。平成28年の人口ビジョンでみると、平成54年の人口は21万3千人程度（現在は19～20万人程度）と推計している。現在策定中の長期総合計画でもう一回推計をしている。

【委員】今後ますます増加で考えていいのか。

【事務局】その通りである。もう少しの間、漸増するようなイメージを持っており、そのあと、少し減っていくと予想する。

【委員】年齢層のデータはないのか。

【事務局】年齢層のデータは、ある程度の区分で持っている。参考資料3のP2-10の3つ目のグラフ、総人口の長期的な見通しがある。データは途中であるため、最新版に差し替える可能性がある。割合については、平成54年の推計結果を現在と比較すると、高齢者人口が若干増える（5.5万人程度）。生産年齢人口（15～64歳人口）も12万人から14万人になり、若干増える。子供世代はいつとき増えるが、その後横ばいになる見込みである。郊外の都市に比べると、高齢者人口が劇的に増えるわけではない。

【委員長】人口、世帯、年齢階層別人口3区分の推計は、基本構想と矛盾しない形で正確な情報を載せる必要がある。

【委員】1章の役割では、社会の変化に対応して課題を解決する内容となっているが、時代的に最低限の課題は解決する一方で、新しい価値をつくっていくポジティブな内容があるといい。20年後の台東区の将来像を示すだけが目標ではなく、それを示したことで、できなかった動きが起き、誘発するような、呼びかけるようなマスタープランにするのが重要である。今の内容は静的である。台東区が考えている将来があって、まちの人や外の人が積極的に動きを誘発する。位置付けも含め、全体的に誰に対して語っているのかにもよるが、もう少しマスタープランで物事を動かすきっかけになるといい。

【委員長】おっしゃる内容は理解できる。

【委員】行政と区民など、誰のために計画があり、誰が読むのか。いいことが書いてあっても、どうすれば実現できるかがわかりにくいので、具体的に提示できるといい。

【委員長】そこはなかなか難しいところがある。マスタープランにどこまで書くかの議論は庁内にもあり、内容が具体的すぎると予算措置してやらなければならない拘束条件になる。一方で5年、10年後は状況が変わる可能性もあるため、判断が難しい。

【事務局】どうやって進めていくのかの具体的な話になると思うが、まずは都市マスでは一定の方針、展望を示したうえで、資料2のP9のように重点地区を設定する。具体的なまちづくりをどうやって進めるかについては、その次の段階として、それぞれの地区ごとに考え

た方がいいと考える。その方が具体的に検討しやすい。

【委員】その通りである。行政だけでなく、市民も参画して進めていくものであるため、台東区が都市計画をどうするかについて押えつつも、もう少し外に呼びかけるようにすると、先ほどの誰のための計画かという問の答えもわかってくる。

【事務局】これをもとに活用していくイメージなのか。

【委員】その通りである。自分のまちをどうするかについて考えることになる。

【委員長】いいアイデアはあるか。

【委員】平等な打ち出しではなく、特色のある部分を強調したらどうか。

【委員】せっかく人とまちづくりという大きな括りができているので意見を述べる。台東区は人が魅力を感じて移住してきて人口が増えているまちである。まちの発展は、このように流入してきた人が魅力を感じてそこに住むことによって成り立つ。まちづくりは住む人が主役であり、都市マスはそれを導くアドバイス役、という方針のもとに計画を取りまとめたらどうか。絶対こういう使い方をしなければいけないと指定するのではなく、そこから先は住む人に任せて、皆さんが主役で、皆さんが好きなまちにすることを素直に出してもいい。

【委員】昔に比べて都市計画の役割が減ってきた。従来型のままでは、台東区もやる量が少なくなってきたが、もっとやることがない自治体もある。市街地の質的な転換、すなわち、ハード的な転換だけでなく、使い方や人のアクティビティ、人の営みを将来に向けてどう変えていくかについて、都市マスでメッセージ性を出し、大きな方向を示して、それを共有し同じ方向に動いていくと、結果、具体的な形になっていく。そういう観点でいうと、土地利用の方針図は最もメッセージ性がないと感じる。個性のある市街地で台東区を埋めていきましょう、というメッセージ性が必要である。土地利用そのものではなく、北部ならこんな暮らし、上野ならこんな営みができるなど、大きな方向性の図面があり、それを実現するために、用途、ボリュームのコントロールなどがぶら下がるイメージである。

【委員】私の娘は上野にパルコヤができたなら上野に引っ越してもいいといった。今の若い人は静かな環境や郷土愛より生活の便利さ、ライフスタイルを重視し、自分のライフスタイルに合うと移り住むことを考えると、このエリアはこのライフスタイル、というように、ライフスタイルが見えてくるといい。

【委員】去年の最後の策定委員会では、健康が大きなテーマの一つとなり、個人的にもいいと思った。谷中や上野公園、浅草のまちなみは、健康面でも若い人を引き付けるのではないかと。健康の考え方をもう少し活かしてほしい。

【委員長】おっしゃる意味はわかった。例えば土地利用の方針は昔からある方針図で、それとは別に暮らしのイメージが追加できるといい。今の方針図を捨てるわけではなく、残す必要はあると思うが、その前に大きな方針として、人々の営みや暮らしのゾーニングができると、メッセージ性が出てくると思う。

【委員】例えば谷中なら、昭和のノスタルジックなまち、昭和のにおいがするまちなど。

【委員】最初の議論で「ひと」とは何を指すかにもよる。これは基本構想から持ってきたキーワードであり、その中では、「ひと」の対象を、住んでいる人、働いている人はもちろん、観光客も視野に入れているため、そういう前提の議論にしたい。また、暮らしのイメージについては、基本構想、長期総合計画と同時並行で検討するため、それらの計画におけるイメージも追っていかなければならない。都市マスでどこまで書くかについては今

後検討したい。

【委員長】都市マスだけでの対応は難しいと感じた。

【委員】「ひとを元気にするまちづくり」の考え方が前にある。住んでいる人、働いている人もすべて該当する。ラーメン屋で例えると、「味づくりはひとづくり」であり、いい人をつくるといいものをつくれると考える。人が大事だから、人が元気になるまちづくりが基本と考える。元気に来て楽しんでわくわくし、住んで元気になるまちになるといい。

【委員長】「まちづくりはひとづくり」ともいえる。

【事務局】資料2のP2に将来像を受けて都市マスとしてどういうまちづくりのイメージにするか、キーワードを置いている。人が輝いて活動することについて冒頭で謳っている。その実現のために、引き継いで手段や方法を分野別整備方針や第3章の下半分のところなどで示している。ワードだけでなく、ゾーニングで落とせるかどうかについては、検討していきたい。

【委員】新しく流入して住んでいる人と地元の人との隔たりが取れず、苦勞している。マンションの夜景のイベントのときも子供と一緒に参加するよう呼び掛けており、子供たちにおもちゃを上げて遊んであげて、遅い時間になれば青年部の人メインとなる。将来その子供たちを青年部に入れたい気持ちもある。住民と一緒に、時代に対応して新たなコミュニティをつくることは重要である。

【事務局】ひとまちの安全性の部分で、コミュニティの記載がある。コミュニティを活用するイメージをここで共有したい。

【委員長】キーワードの上に、もう一段挟むということか。

【事務局】下の段に将来のイメージを書いている。そこに、どんな人々がどう活動するかのイメージを置く。3章の将来イメージを実現するためのものを整理する。

【委員長】基本構想の話が冒頭でしかなかったため、混乱したこともある。本来は基本構想をふまえ、都市マスの将来像や基本目標を設定し、その下に都市マスのキーワードが出てくる構造である。

【事務局】参考資料3のP3-2と資料2のP2の表は、表現は異なるが関連している。こういうところで表現されないかと思う。これは現行都市マスにはなく、初めての試みである。まちの将来イメージを示すために、こういうページを作成している。

【委員長】まちだけでなく、ひとまちの将来ということでもいいのか。

【事務局】その通りである。まちだけではない。文章は精査する予定である。

【委員長】将来像と基本目標がちゃんとしていればいい。ひとのことは結構書いてある。

【委員】まちと書くところに、あえてひととまちと書いたところはいいと思う。

【事務局】示すべき基本構想が示せず、議論が輻輳していて申し訳ない。

【委員長】資料2のP2の赤枠内に具体的な内容が入るからいいとして、P3の土地利用方針図にもう少しすてきな図が入るといい。

【委員】本来の都市であればもう少し多様で個性がある。同じ土地利用でも実態は違う。未来に向けてどういう個性が必要かを記載できればいい。まだ地域別まちづくり方針の議論が詰まってないため書けないだけで、そこが議論できてつながれば結果的に書けるようになるかもしれない。

【委員長】おっしゃる通りで、一般複合市街地とこういうふうに塗られると全部一緒に見えるからどうにかしたい。

【委員】もっとわくわくするような表現はないか。蔵前周辺はアトリエのエリアがまだまだ広がっている。固い、面白くない表現でなく、わくわくする表現を用い、若い技術者が「こ

ういうところなんだ」と思えるようにできるといい。

【事務局】地域別まちづくり方針でどのように表現するかと連動する。土地利用の方針は概括的に示すところだと思っている。

【委員】台東、鳥越エリアはクリエイティブなまちにするなど。

【委員長】地域別まちづくり方針を検討して戻るということは、地域別の検討結果の切り貼りではない。それを戻して区全体としてどういう特徴のある住まい方が土地にあるのかについて、P3の右側の絵に反映できるのではないか。

【委員】土地利用の場合、生活環境の中に近隣商業などが揃っています、という話が一番わかりやすく、それが全体構想のみならず、地区別構想にも反映されるといい。例えば、半径500mの円を地域別に6つ描いて、その中にいかに多様な土地利用にするかという方針もあり得る。それは方針でもあり、台東区の既存の特徴でもある。(谷中には住宅専用もあるが) いろんなどころがまじっていることが表現できるといい。その単位が見えるといい。街路沿いで少しずつ特徴が異なっていたり、各円には商業地域がちゃんと入っていたりして、身勝手な方針ではなく、台東区の魅力そのものを表現すればいい。1枚でレイアを加える程度でいい。

【委員長】今の図は計画図になっている。

【事務局】何らかの形で表現する。

【委員長】用途地域を都が決めている以上、区が土地利用方針図を入れる意味とは何かを考えた方がいい。

【委員】都任せはよくない。

【委員】現状が変わって負の影響が出るのもよくない。地域別に検討する。

【委員】この通り一本分をずらしてほしいとか、商業を数ブロック南へ下げてほしいとか、こういう議論を地域別まちづくり方針で議論するイメージでいた。漠然としている図には突っ込めない。

【委員長】3章で書くべきものは大括りの土地利用方針図でいい。細かいレベルの話は地域別まちづくり方針で検討する。地域別も一枚で載せるとわけわからなくなってしまう。中身は議論していて材料はあるので、表現の仕方、見せ方を工夫してほしい。

【委員】P2が気になる。魅力、活力などのキーワードに一番古さを感じさせる。「ひとまち」を追加してはいるが、従来どこでも基本構想でも、都市マスでもありそうな表現である。例えば利便性は人から見れば暮らしやすさ、快適性は居心地良さ、多様性は新規性、受容性、柔軟性まではいいいにくい、そのような表現が該当する。活力は活気と連携、魅力は誇り、輝きなど、もう少し概念を解体して、中にある言葉で、基本構想とも重なるような、ひとからみたまちの言葉に変えた方がいい。安全性に入るか快適に入るか判断がつかないもののように、どっちにも入るような項目がいくつもあるが、言葉の表現を変えることによって、そういうものが仕分けられて、インパクトがあり、強みになるのではないか。日本人が作ると反省から始まるので、問題と課題から解決する方向になる。もう少し褒め育て、あまり反省的なものではなく、「台東区はこんなところが良くて、だからこんなふうになるんだよ」というメッセージ性があるといい。将来イメージなので、それらしく引き付けるようにする。6つのキーワードはそもそも将来イメージを語る言葉になっていない。もう少し下を整理してからでもいいかもしれないが。

【事務局】課題解決型が強くなってしまった。

【委員】バリアフリーが課題になっているから、バリアフリーが将来のイメージに入っているイメージである。そこは取捨選択して強いメッセージ性を持たせる。地球環境、自然環境、

低炭素などがひとまちの快適性に全部入ってくるのか疑問である。上を直すか下を直すかにして、言葉を選んで、強いメッセージ性を出したらどうか。

【委員】個人的に下はいいと思う。上のキーワード6つは数が多い。また、キーワードではなく、タイトルではないか。

【委員】キーワードなら5つ以下の方がいい。

【委員】一つだけでもいいかもしれない。

【委員】それは赤枠の中に入るものでいい。基本的にコンセプトとビジョンであるが、ビジョンにはなっていない。コンセプトは赤枠に入るとして、下はビジョンだとすると、ビジョンにはなっていない。

【委員】これが後ろの内容には続かないのではないか。

【委員長】参考資料2に続く。一つ、P2は書きすぎと感じた。

【委員】その通りである。取捨選択が必要である。

【委員長】詳細は分野別整備方針で書くので、ここはすっきりさせたほうがいい。キーワードを変えると後ろに影響が出てくるので判断が難しい。

【委員】代表的なものを抽出して、キーワードに暮らしをイメージさせる文章があるといい。例えば、10分以内に気持ちのいい公園があるかどうかなど、端的な暮らし、典型的な暮らしの代表例をキーワードとして出すといい。全部カバーしなくていい。

【委員】同意見である。

【委員長】キーワードよりは観点に近い。キーワードを少し精査した方がいい。これは土地利用方針図の表現とも連動する。

【委員】「なるほど、人を考えるんだ」がわかるようにする。

【事務局】検討する。時間の制約はあるが、可能な限り対応する。

【委員長】暮らしというのは、住んでいる人だけでなく、来街者も含めて考えることに注意が必要である。

【委員】P3の土地利用方針図の鳥越周辺（台東、鳥越、蔵前橋通りから春日通りにかけてのエリア）は、現行都市マスでは作業所の水色であったが、今は業務地になっている。このエリアは家内工業が盛んであるが、それをやめてビル化するという意図なのか。既存の住民を否定しているように感じる。

【事務局】そういう意図はない。現状を否定していない。

【事務局】現行都市マスでの作業場の区分は、浅草の北部のみである。該当エリアはもともと業務地であった。念のため再確認する。

### (3) 台東区都市計画マスタープラン（事務局案）について（4章）

【委員】景観まちづくり方針では、ひとまちの概念を考えると、賑わい、伝統行事、お祭りなど、人自体が風景になっている部分が台東区にはかなりある。景観はハード、建物のイメージだけでなく、いきいきして楽しく暮らす自体が風景になる。例えば、交通の道路空間活動も風景づくりに捉えられる。景観をひとまちから広く捉えて、ソフトな部分も入れてはどうか。

【委員長】おっしゃる通りである。書き加えるなり表現を検討するなりして対応すべきである。

【事務局】対応する。

【委員】花とみどりは区で掲げているが、せっかくなら官民連携や外国人との連携にも取り組んだらどうか。最近コミュニティガーデンなど、様々な場面で取り組まれている。これを

見ると今までの公園止まりとなっているので、花とみどりによって図れる連携、例えばコミュニティの活力強化、企業との連携などができるといい。区役所の人が花壇を植えるだけでなく、企業連携、外国人連携も含め、花とみどりを連携ツールとして捉えてほしい。

【委員】花とみどりの基本計画を改定し、そこに反映されている部分もあるため、整合を取る。

【事務局】指摘事項はやらなければならないことと認識している。もう少し書く。

【委員長】いかにも都市計画という感じではなく、「それぞれの方針に書いたものが実現すると人がどうなるか」という観点が必要である。書き方の問題である。

【事務局】視点を加える。

【委員】1点目は文化・産業・観光まちづくり方針のタイトルについてである。庁内の部の名前をくっつけたような印象を受ける。観光はどちらかというとツールであり、文化、産業が観光資源にもなり得る。それを並列に扱っているところに違和感がある。文化・産業・観光資源は重複する表現であるため、どっちかに集約したほうがわかりやすい。例えば、文化・産業だけにすると経済政策みたいな性格も出るから、観光資源に絞ってしまうなど、工夫が必要である。観光はいろんなものを集めた概念である。2点目は「おもてなし」についてである。おもてなしが流行りようになっているが、個人的には観光客におもてなしの必要はないと考える。日本人がすでに持っているホスピタリティを提供し、日本人が普通に生活しているものにふれさせ、日本人と友達になるというのが観光の世界である。無理におもてなしを人工的につくる必要はない。それよりも、観光振興と居住の調和が最も大事と考える。両者のコミュニケーションが上手くいけば観光も成功し、対立すると悪い方向に向かってしまう。ひとが絡んでくる部分でもある。どうやって両者の調和が取れたまちづくりを実現するかという観点からタイトルを工夫していただきたい。

【事務局】非常に判断が難しい意見である。区として力を入れて取り組んでいる事情もあるため、各部署と話をしないといけない。しかし、おっしゃる通り、観光はそれぞれのものの組合せかもしれない。

【委員】これから台東区は地場産業ではなく観光に力入れたらと発言した政治家もいるが、個人的にはその考え方に反対で、観光を使って地場産業を振興させればいいと考える。別物と捉える人が結構いるようだ。

【委員】谷中地域は住み方自体が観光の目玉となる。

【委員長】今回のマスタープランのいいところでもあるため、どれも落としがたい。

【事務局】台東区の特徴を出せる分野でもあるため、慎重に判断する必要がある。

【委員長】観光を消すという判断も難しい。タイトルに掲げるのは重要である。

【事務局】観光を外すには度胸が必要である。

【委員】空間的方针として、観光施策、産業振興施策、文化施策がそれぞれ含まれている

【委員】そうなると並列もおかしくない。

【委員長】分野別の一つとしてこのままにするが、中身の書き方については、ご指摘を踏まえ観光を別ものにせず、観光だけ独り歩きしないように注意すべきである。

【委員】観光だけ独り歩きさせると変になる。

【委員】浅草、上野は観光も重要である。台東区は観光資源が豊富なまちなので、観光プランが別にあるにせよ、それをまちづくりでどう扱って、空間としてどうつくるのかという視点をなくさず、大事にした方がいい。

【委員】生活・住宅まちづくり方針で、生活関連のアクセス向上があるが、どうアクセスが足りてないのか、どういうふうに取り組んでいくべきかについて、わかりやすく提示する必要がある。住民が見たとき、自分が住んでいる地域でアクセスが足りてないところが確認でき、取り組みの必要性が認識できるといい。健康はリハビリや病院だけでない。どういうふうにやっていくか問題意識もってもらえるよう、住宅に特化して工夫してほしい。例えば、アクセス性がどう足りてないのか、施設をプロットして表現するなどの工夫が必要である。

【事務局】検討する。

【委員長】アクセス性の向上に関して、具体的なイメージはあるか。医療、福祉など。

【事務局】触発させることでいうと、バリアフリー関係で、買い物、健康・医療施設などの施設、鉄道施設、公園などへのアクセス性の向上が該当するが、どこまで表現できるか検討が必要である。数が多くなり、見えづらくなる可能性があるが、何らかの形で方針が表現できるといい。

【委員】ビジョンまでいかなくても、自分の地域の問題意識を触発するような情報があるといい。

【事務局】方針と現況、どちらを示すか、どこまでできるか検討する。

【委員】1点目は住宅についてである。台東区は商業地域が多いが、今後10年後、20年後、商業はこんなにたくさんは要らなくなる。結局全部マンションに代わると、20年後は居住環境の悪いマンション街になる恐れがある。そこをけん制する先手を打たなくていいのか。2点目は防災まちづくり方針についてである。北部地域は地域危険度が高く、建物の更新速度が遅いため、取り残されて危険性高いままになる恐れがある。墨田区、荒川区も同様の状態であったが、ここ10年くらいで荒川区は更新に成功した。上の代が亡くなって自然と更新されたケースが多い。北部地域も変わるか、それともさらに悪化するか。都市計画としていいインパクトを与えれば、変えられるいいチャンスになる。この先10年がキーとなる。どこかにきちんとそのことを打ち出したほうがいい。

【事務局】地域別まちづくり方針に反映する。

【委員】防災まちづくり方針にも、単に危ないからではなく、言い方を変えてチャンスであることを打ち出す。10年間のチャンスを逃すと次はないという意気込みを書いた方がいい。

【委員】3点目は交通についてである。台東区は道路率が高いが、車の使い方も変わり、パーソナルモビリティが普及するなどの影響で、今後はこんなに道路は要らなくなる。歩道空間の使い方を見直すための実証実験をするなどの取り組みをどこかに書いた方がいい。

【委員】オープンカフェも該当する。

【委員】まだオープンカフェしか思い浮かばないが、取り組みはもっとある。

【委員】住宅まちづくりの方針の内容が最も納得がいかない。どのような住宅を建てたらよいまちになるか全然イメージがつかない。今ある家を建て替えて将来のまちも現状のままというイメージしか描けない。デベロッパーやハウスメーカーなどが建て替えのチャンスを狙っている。例えば、10年前は750世帯で3分の1が地元民であったのが、今は1000世帯を超えて地元民は20%以下となっている町会もあり、住宅の更新はすごいスピードで進んでいる。ここを何とかしないと、台東区のまちは環境悪化のマンション群になってしまう可能性がある。

【委員】マンション密集市街地になりそうである。



【委員】都市マス以外にも住宅マスタープランを策定している。ところが、賃貸マンションの現況がまだわかっておらず、今年度住宅課で実態調査する予定である。都市マスにも拾えるものは拾う。おっしゃる通り、南部地域も現在マンション業者が集まり、地上げが起こっている。千代田区などの中心区は一時期人口減少したため、マンション誘導していたが、昨年の秋からマンション自体は規制しつつ、生活利便施設を誘導する方向に変えた。台東区でもいずれは同様の検討が必要であると認識する。

【委員長】生活・住宅まちづくり方針は、土地利用方針図を書き換える影響により、かなり変わると予想する。今日の資料は検討のポイントの箇条書きと中途半端な絵しかない。要望が完全に反映できない部分もあるが、図は大事である。文章を読まないとわからない事態は避けたいので、なるべく図でメッセージ性が読めるように対応する。

【委員】復興まちづくりとは何か。

【委員長】災害で被害が出たとき、万が一のときに備えてまちを考えておくことは重要である。「こうしなきゃ」と決めるのは難しいが、改めて考えておくのと考えないのでは、初動の動きが違うので、ざっくりとした方針を決めておく必要性を示しておくことは重要である。

【委員】防災強化を訴えつつ、万が一のときにも備えるということで理解した。

【委員】東京都の方針に、被災した後、円滑かつ速やかに復興できるようにするという考え方がある。手順を予め決めておくことである。東京都の考え方を受けて、区でもやろうということで位置付けしている。重要なのは適切に復興できるかである。被害を受けたあと、単に元に戻すだけで意味がない。円滑かつ速やかにという観点からすると元に戻すのが最も簡単なやり方ではあるが、そうではなく、もっと素晴らしい未来を描くために、事前に考えていきましょうという意味合いがある。

【委員】ちょっと怖い話で、そこまで考えなきゃいけないかという感じもする。

## 5. 閉会

【委員長】今日はいろいろな議論が出てきて、特に3章に関する意見が多かった。事務局で検討して、次へつなげていきたい。次は地域別まちづくり方針も議論しなければならないため、焦ることはないが、なるべくコンパクトに議論したい。本日言い残した部分は事務局に何らかの形で伝えていただきたい。

【事務局】次回の策定委員会は7月開催を目標にしている。今度は地域別まちづくり方針を議題とする。詳細は後日連絡する。

以上